Ⅱ　昭和52年度第1回シグマ特別専門委員会議事録（要約）

以下に標記委員会の議事録の要約を掲載します。この議事録は未だ委員会での確認の手続きを経ておらず，すべて文責は事務局にあることをお含みおき下さい。

（編集　事務局）

昭和５２年度第1回シグマ特別専門委員会議事録

日　　時　　昭和５２年４月２８日（木）　11：00～17：30

場　　所　　日本原子力研究所東京本部第３４会議室

出 席 者　　塚田　甲子男（主査，原研）　他１８名

議　　事

1. 主査の挨拶

2. 事務局報告（更田）

1）人　　事

委員の交代，新任，退任が報告され了承された。

2）Mass Chain Evaluation

主査よりＢＮＬのPearlstein 氏へ分担申込みの手紙を出したところ，mass region を調整して欲しいとの要請があり，Ａ＝１１８～１２９で合意に達した。燃料計量専門部会に核構造，崩壊データＷＧを設けて作業を始めたいとの説明があった。

3）ＪＥＮＤＬ－１とＥＮＤＦ／Ｂ－Ⅳ

ＪＥＮＤＬ－１の１部には，ＥＮＤＦ／Ｂ－Ⅳのデータをそのまま利用しているものがあるので，今後のトラブルを避けるためにもその部分を除いてＪＥＮＤＬ－１を公開することにしたい旨が報告された。

4）ＪＥＮＤＬ検討会，学会総合報告およびInformal Meeting

標記の会合が行われたことが報告され，今後もこのような催しを継続して行いたいことが述べられた。

5）学会編集委員，部門委員

学会編集委員は，更田委員の任期切れに伴い後任に中嶋委員が当たることになったことおよび部門委員としてシグマ特別専門委から更田委員が出ることになったことが報告され了承された。

6) 核データ小委員会（塚田，更田）

この小委員会は原子核談話会が選挙母体になっている核物理委員会のもとにつくられたものであるが，本委員会もそれとCommunicationを密にしてゆく必要があることが述べられた。

7) Transactinide Nuclear Data（TND）のEvaluation

省略。（「核データニュース」No.3，p.8 に詳細記事があるのでそれを参照して下さい。）

8) 国際会合

最近のCharged Particle Nuclear Data（CPND）meeting（4月25日～29日）には田中(一)氏，池上氏，阿部氏が出席した。IAEA and Advisory Group Meeting on Fission Product Nuclear Data（9月）には飯島(俊)委員が出席の予定である。Specialist Meeting on Cross Sections in Structural Materials（12月）には大竹委員および浅見(哲)氏が出席の予定である。1978 Conf on Neutron Physics and Nuclear Data for Applied Purposes（通称 Harwell Conf）の紹介があった。（詳細は「核データニュース」No.3，p.16を参照）。とくに，主査よりHarwell Conf の organizing committee の member になっているので積極的な意見があったら出して欲しい旨の発言があり，また，このConference に対する米国のadvisory committee memberからの提案の紹介があった。

9) CCDN／CPLの合併

合併してNEA Nuclear Data Bankになる予定であるが，1部に強い反対があり合併が延びていることが紹介された。（その後の連絡によればNEA運営委員会において合併が決定したとのことである。）

3. JENDL－1とベンチマーク・テスト（菊池(康)）

トピックスの報告として，標記の説明が行われた。作業は51年12月に終了したが，^{239}Pu，Fe などで若干問題点があるので現在検討中であることが述べられた。その後，議論に入り，JAERI FASTとJENDL－1との関係等が討議された。

4. 52年度実行計画

(1) 52年度予算

(2) WGの改廃

熱中性子散乱WGが熱中性子文献グループになりCINDAおよびWRENDAグループと

ならんで恒常的なグループとして活動することmass chain evaluationのために核構造・崩壊データWGが新設されること，核データ検索WGを廃止することが提案され了承された。

また，燃料計量WGの活動は転期にきていること，核データ評価WGと融合炉核データWGとのすすめ方の問題が指摘されていることが述べられ，調整する必要があると報告された。これに関連し五十嵐委員より，4月18日に行われた核データ専門部会での討議結果が報告され，遮蔽用核データ，Transactinide データ，evaluation 用コードの開発などの提案があるが，当面はJENDL支援の専門部会としてすすめてゆきたいと述べられた。桂木委員より炉定数専門部会の状況，中嶋委員より崩壊熱WGの状況の説明があった。

これらの説明について討議が行われ，

- 崩壊熱WGと核構造・崩壊データWGとは調整できるのではないか。
- 融合炉核データ，safeguards のグループは小人数でneeds 等の検討をするWGとし，必要なデータのevaluation は別のWGでやるような形態にするのがよいのではないか。
- 核融合・遮蔽WGの新設

などの意見が出た。これらを含めて各専門部会で検討してもらい，運営委員会で決めることになった。

5. 53年度活動方針（概算要求）

更田委員より原研原子核データ室の53年度概算要求の概要の説明があり，その中で原子・分子データのテーマの新設を要求することが紹介された。

6. 委員会組織の検討，内規の検討

更田委員より組織の検討の主な動機，とくに幹事会あるいはそれに相当するものを毎月程度開催し，その会合で決められることはできるだけ決めてゆきたいとの主旨の説明の後，資料にもとづき，「幹事会」の名称を「運営委員会」に改めること，監査小委員会を設けること，それぞれの委員会の構成，任期等について提案内容の説明が行われ討議を行った。その結果，原案に対して次の点を修正または付加することにした。

- 運営委員会の構成のうち「作業グループ・リーダ」とあるのをなるべく小人数にするため「作業グループ・リーダ若干名」にする。
- 「運営委員数は本委員数の1／3程度とする」を加える。
- 特別小委員会の規定を加える。

○　監査小委員の任期１年を明示する。

文章の細部については，運営委および監査委でさらに検討して決定することにし，大筋については了承された。

この承認を受けて運営委員および監査小委員の人選に入った。これに先立ち，内規の細部を決定した上で後日，人選を行ったらどうかとの意見があったが，本委員会は年２回程度しか開催できないため運営に支障を来たすとの事情が説明され，人選を行うことにした。自薦，他薦がなかったため，幹事会案が提出され，次のように決定された。

運営委員会委員：主査，五十嵐，桂木，久武，百田，更田，松延，飯島，田中，中嶋，宮坂，大竹，関の各委員

監査小委員会委員：安，立花，能沢，原田，山室，山本の各委員

7.　ＩＮＤＣ第９回会合の準備

更田委員より会合で報告する事項およびその準備状況の説明があった。また，Regional Conference を日本で開催する件について，考えを問われた場合には，日本としては１９８０年以前はTandem 等の建設状況からして無理であると返答することにした。

8.　核構造国際会議のPre－symposium

省略（９月３日に行う予定で討議が行われたが，その後都合により中止することになった。）

9.　５２年度核データ研究会

ＪＥＮＤＬ－２と非中性子核データ，各利用分野と非中性子核データ，核構造・崩壊データ，荷電粒子核データ，光核反応核データの案が示され，とりあえずＪＥＮＤＬ－２と非中性子核データとすることにした。運営委で議論するので意見があったら出して欲しいとのことであった。

10.　５０・５１年度２年報

ＪＥＮＤＬ－１およびベンチマーク・テストのトピックスを中心に書くことになり，世話役には飯島，松延，大竹の各委員が推せんされた。詳細については次回の運営委できめることになった。

11.　Informal Meeting

次の学会での informal meeting をどうするかについて自由討議が行われた。